

令和 6 年度

自治と協働の職員研修報告

1. 研修の趣旨説明

平田委員より説明。これまでの研修ではぐくむ条例の内容、協働とは何か、協働の進め方について理解を深めていただいた。今年度から研修を具体的実践への転換期と位置づけ、条例の見える化或いは協働の具体化のために、1 歩踏み込んで、各職場で各職員の皆さんがそれぞれの仕事、立場の中でどう取り組むのがいいかということを探る研修会とした。そのために、先進的事例を 3 例発表いただき、それを参考に、グループごとに十分意見交換をし、実りのある具体的提案に取りまとめていただきたい。

職場により向き不向きはあると思うが、積極的に前向きに討論いただくことをご期待申し上げます。職員の皆様方が本気で、実行に移すかどうかは今問われている。橋本市の発展のために、勇気を持って 1 歩踏み出していただきたい。

本日は楽しみながら頑張ってください。

2. 協働の事例発表

昨年の職員研修事後アンケートにおいて要望の多かった協働の事例発表について、市民と行政の双方から計 3 名に発表頂いた。

- ①はぐくむ委員兼はしもとプラチカ代表 東委員より「はしもとプラチカ」について
- ②いきいき健康課 岸部課長代理より「げんきらり～教室」について
- ③まちづくり課 中井係長より「アダプト制度」について

3. ワークショップ発表内容（要約）

テーマ：①事例研究発表の評価②成果と課題の整理③今後の活用と発展への具体提案

○午前の部：11 時 00 分～

【6 班】佐藤 陽子（はぐくむ委員）、ほか職員 7 名

地域協働の課題等について話し合った結果、考えの形として①好きなこと②得意なこと③地域に求められていることの 3 つのカテゴリーに分類できた。この 3 つ全てのカテゴリーに該当することが地域協働に必要で重要なこととの考えに至り Vamos（バモス、スペイン語で一緒に行こう）と名付けた。

【4班】平田 敬二(はぐくむ委員)、戸島 浩子(はぐくむ委員)、ほか職員 5 名

区・地域の清掃について考えた。課題は①参加者の高齢化②草刈り機等特定の道具の扱いでの特定の方への依存。③耕作地放棄による清掃範囲の見直し④外国人や転入者における清掃活動の必要性の周知。

解決に向けた提案として①アダプト制度の登録団体への協力依頼②外国人や転入者に地域コミュニティの紹介③挨拶運動④地域事業者との協力を提案し、発表とします。

【3班】岸田 昌章(はぐくむ委員)、芝 一與(はぐくむ委員)、ほか職員 6 名

協働にあたることをグループ内で話し合い、こどもに関わることが多かったためそれについて考えた。成功していることは楽しんでいるがやらされ感のある人がやらされ感が強くなると継続しない。協働とボランティアの違いが分かりにくい。見守り隊・ふれあいルーム・ヘスティア・学校区での清掃活動が協働にあたるのではないか。行政との繋がりがよければうまくいく確率が上がる。高齢者向け、こども向けの話が多いため、他世代についても話し合う必要あり。地域運営組織の設立が課題。

【5班】玉井 勝代(はぐくむ委員)、上原 慎太郎(地域振興室)、ほか職員 5 名

協働事例をグループ内で話し合った結果、ふれあいルームとなったが、うまくいっているもの、いっていないものの共通課題として当事者意識が挙げられた。あの人がいるから大丈夫。区(市)に任せたらあとはいい。ではなく、協働の全ての参加者が自分がやるんだという意識を持っている組織や活動はうまくいっている。

当事者意識を持ってもらうための具体的な提案として何か一つ成果があれば参加者意見のフィードバックができ、当事者意識が芽生える。

【1班】東 美樹(はぐくむ委員)、福澤 稔(はぐくむ委員)、ほか職員 6 名

協働事例をグループで共有。メンバーに昨年自治会役員であった方がいたため、自治会と市の協働について話し合った。課題として①地域の見守り②区長・班長の負担が大きいが挙げられた。②の原因は地域の困りごとに関する相談がその方に集中するため。

打開案として地域は担当の分散。道路や清掃等に関して区長ではなく担当者を設置することで負担を分散する。市は地域での課題の声を拾い上げ、市への相談の道筋を示すことが挙げられた。

【2班】田村 亜美(はぐくむ委員)、今山 知紀(地域振興室)、ほか職員 6 名

具体事例を出せず全体的な話となった。印象的なこととして市民としての立場と職員としての立場の違いがあった。職員の立場では要望を聞くことや補助金を出すことを意識し、気持ちで壁が出来てしまうという意見であった。また、地域活動に積極的に参加している職員からは楽しいという意見もあった。地域活動への参加が職場にどのように活かされているかを尋ねたところ、市民の立場や気持ちが分かるようになることや協働に関して前向きになれること、地域が助けてくれることを考えるようになることが挙げられた。

結論として協働の課題は職員としての仕事意識。提案としては①仕事外での地域活動への積極的な参加②協働の話が市民から挙がった際に課を超えて相談を聞く場づくりが必要ではないか。

【講評】(①実践発表の評価、②成果と課題の整理、③協働の具体例の提案など)

研修お疲れさまでした。本日の研修は、協働のまちづくりの現状について、①市民と職員の実践報告、②それに基づくワークショップ、③今後活かすグループの提案発表をしていただきました。講評を要約的に整理しておきます。

- 1 協働の定義は、「異質な主体と共生して住みよいまちを創る」こと。
- 2 市民・企業・行政が対等の主体となり、協力して地域づくりに新しい価値を生み出す。
- 3 異分野・異世代・異業種の参画を得て、協力の質を上げ行動することで地域活性化。
- 4 学習と情報共有の場づくりが大切。目的意識を持つ「いい人・いいこと」をつなげる。
- 5 少子高齢社会等の進行で、自治体を取り巻く諸環境は厳しい。自治と協働を担う人づくりは喫緊の課題。市民生活全般において自助・共助・公助の関係性の豊かさが問われる。
- 6 自治体の役割は極めて大きい。「誰ひとりとのこさない」が地域づくりの目標。
- 7 地域課題の解決は、①何が問題かの分析・調査、②課題の施策化と実施計画化、③市民等と共同学習・協働実践が不可欠。
- 8 本日の職員・はぐくむ委員の実践報告、グループ提案を各職場で応用して生かす。
- 9 はぐくむ委員も頑張っているので、来年の協働研修で一步進んだ成果を持ち寄ろう。

○ 午後の部：15時00分～

【5班】田村 亜美(はぐくむ委員)、福澤 稔(はぐくむ委員)、ほか職員 5 名

協働事例を出し合い、共通する課題の確認を行った。課題として多かった意見が参加者の高齢化・固定化、現役世代や区・自治会新規加入者の参加であった。

解決策として①できる人ができる範囲で参加する仕組み作り②地域の企業やこどもを巻き込むということ考えた。また、周知力の向上のため、地域の回覧だけでなくこどもを通じた発信。例えば学校でのチラシの配布、企業への配布、市の公式 LINE による地域放送を行うことで若い世代の参加を促すことが出来るのではないかと。

【3班】佐藤 陽子(はぐくむ委員)、平田 敬二(はぐくむ委員)、ほか職員 4 名

メンバーに「た」が多いのでチーム名を「チームた」とし、テーマは空き家対策にした。課題は①空き家が増えていること②所有者、地域とも空き家に対して無関心な方が多いこと。

その中で令和 4 年・5 年に空き家発生予防プロジェクトを城山台、岸上、嵯峨谷の 3 地区で実施。出前講座には城山台から 126 名。岸上では役員会と当日開催など多くの方に参加いただいた。地域に入り込むことで無関心だった方にも関心をもっていただけた。新たな課題としては 4 地区目が出てこないこと。チームに相談し①広報の特集②誘致企業の社宅として活用③サロンとして地域で活用いただき、その地域で出前講座を実施などの提案を頂いた。

【6班】東 美樹(はぐくむ委員)、前田 陽一郎(はぐくむ委員)、ほか職員 5 名

活動の実績としては地域活動と企業の団体活動がある。課題は高齢化、周知不足、人口減少、参加者の固定化、担い手の減少が挙げられた。

提案は①楽しくやる②誘いやすい人から誘う③こどもや未来をテーマとしてのきっかけづくり④企業へボランティア活動の時間を勤務時間や代休扱いにするような制度導入を呼びかける。これらが若い世代の参加に発展していくのではないかな。

【2班】井西 三知子(はぐくむ委員)、戸島 浩子(はぐくむ委員)、ほか職員 5 名

テーマは防災訓練、災害時の対応。課題は①一人暮らしの方の対応②防災訓練の参加率の低迷。③訓練自体の形骸化が挙げられた。

解決のポイントは情報共有①高齢者本人から普段家の中でいる場所などの情報提供②行政から防災ラジオの周知徹底③行政を加えた防災訓練による情報連携の強化④こどもでもわかりやすいパンフレットの作成。その他、防災訓練にゲーム性やお菓子の配布などの楽しみを加えることで訓練参加率も上がるのではないかな。

【1班】岸田 昌章(はぐくむ委員)、ほか職員 5 名

協働の事例を考える中で協働と協力は違うという意見があり、協働の定義を再確認する機会となった。

協働は同じ方向に向かって助け合っていくこと。サマーボールで考えると課題はボランティアに若者がいない。お金も協賛金で成り立っている。このことから市のイベントは協力で成り立っているが協力から協働につなげていく仕組みが必要。

【講評】

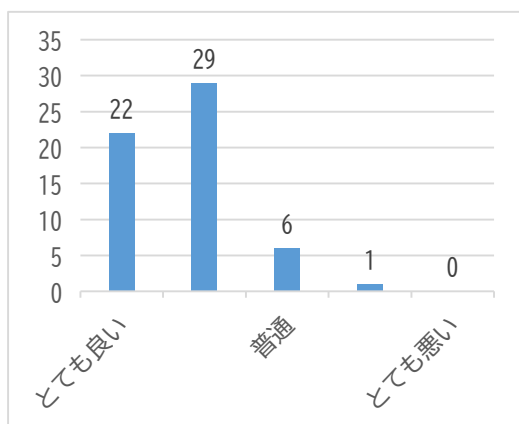
研修お疲れさまでした。午前の部と重なる部分は上記を参照してください。午後の部の特徴的なところを中心に要約します。全体として課題発見型の報告が多く感じました。

- 1 地域のまちづくりでは、参加者数の少なさ、世代交代が進まない。効果的な周知方法のあり方等は、全国的にも問題化。情報共有や力を貸してほしいという熱意の声掛けも必要。
- 2 はぐくむ委員が「議論から実践へ」呼びかけたプラチカからも学べる。関心のある層・問題を抱える層に、予断なくアプローチをして広げていく。
- 3 橋本市で多様な活動をする人たち、グループ・団体の横のネットワークや居場所がほしい。異分野の人がつながると活気が出る。企業（市民）の参画はとても大事。
- 4 地域のまちづくりに参画、関心ある人たちも少しずつに拡大してきている。
- 5 はぐくむ条例を契機に「橋本市が住みよく元気になった」、というレポートを来年こそ期待します。

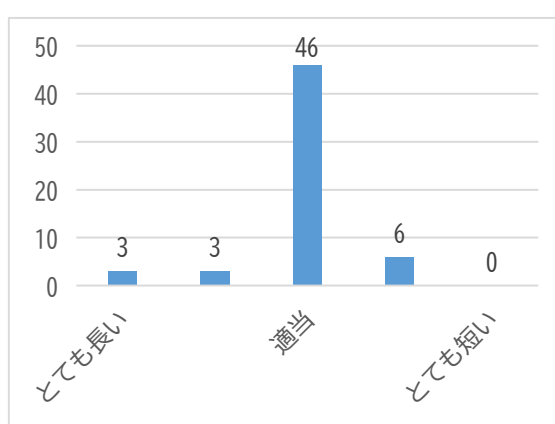
4. 研修後アンケート結果

自治と協働の職員研修終了後、職員及びはぐくむ委員に対して振り返りアンケートを実施しました。なお、「③ 自由記述」の内容は原文のままになっています。

① 内容はどうでしたか？



② 長さはどうでしたか？



③ 自由記述

- はぐくむ委員の方とお話しでき、市民の方の意見や意識が高い方もいることがわかり非常に良かった。
- 他の部署の方と協働について話す機会が今までなかったのですが、今回、参考になる話を聞くことができ、今後の自分が関わる仕事や市民として地域活動に参加する中で協働についてしっかりと考えていきたいと思います。また、はぐくむ委員をいただいている市民の方からの意見も直接聞き、お話できたことも大変良い機会となりました。
- 特色ある研修でした。ご準備いただいたはぐくむ委員の皆さんや地域振興室の方々、お疲れ様でした。

- はぐくむ委員の方と作業ができたことが本当に良い経験になりました。皆さん橋本市を良くしたいと真剣に考えておられるのがひしひしと伝わりました。こうした活動がまさに協働なのではないかと思いました。
- 協働の現状がよくわかりすごく為になりました。市民の方の力は大きいと感じました。仕事をする励みになる研修でした。ありがとうございました。
- 協働は、何気ない行動により発生もするが、考えれば考える程、奥が深いと改めて感じました。それぞれの立場の人が、何を目的とするのかを明確にしないと、同じ方向を向いて達成できないので、事前協議や意識疎通が大切だと思った。
- 協働について少しあやふやな感じだったが、「異業種と仕事」というようなニュアンスがしっくりきたので、これから協働についてより意識していけると思う。
- 多忙な業務の時間の中ですが、協働が重要な取組であると認識して、時間を割いて参加しました。研修中のグループワークも真剣に取り組んでいましたが、グループワーク中にグループに属さない委員？が数名きて長時間雑談するということがあり、グループワークの時間が足りませんでした。また、本人は冗談のつもりでしょうが、一部の参加職員に対して「お前」と呼ぶことや、市の業務、施策内容を批判することがあり、非常に残念でした。今後はそういったことがないようにしていただけたらより良い研修になると思います。研修を進行された方、グループワークを進行していただいた方は、真剣に取り組んでいただいて熱意が伝わりました。
- テーマをもう少ししぼったほうが良いと思います。
- 研修時間は事前に通知のあった通りにしていただきたいです。
- 発表者を発表直前に事務局が指名したらより良いと思う。
- ワークショップの課題、提案まで議論して、考えをまとめる事が時間内に出来なかった。事前に、協働事例のテーマを発表してもらった方が、個人の考えがまとまり、討論がはずむと考えます。提案について、多く時間を取りたかったです。
- 協働の定義を考えるとその活動が協働なのかわからなくなったりしました。(実行委員会形式は協働なのか？とか)ワークショップに入る前に資料内でも協働と捉えられる活動一例とかがあれば尚良いなと思いました。個人的にはプラチナのみんなでチャレンジの内容のセンスの良さに脱帽しました。貴重な機会ありがとうございました。

5. 研修の様子



